

経営比較分析表（平成28年度決算）

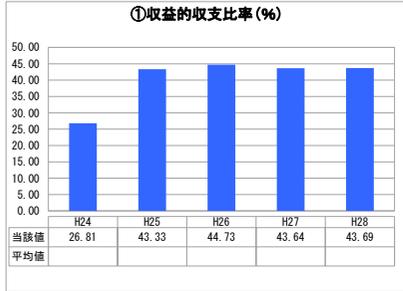
神奈川県 松田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	83.25	90.00	1,723

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,318	37.75	299.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,400	1.97	4,771.57

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



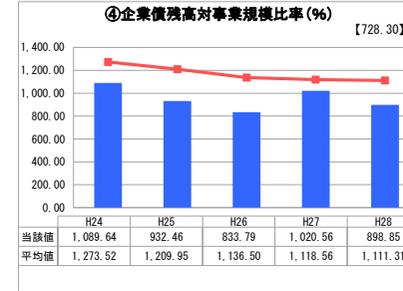
「単年度の収支」



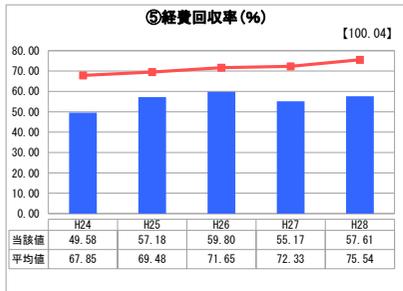
「累積欠損」



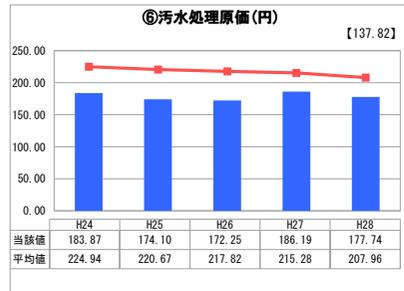
「支払能力」



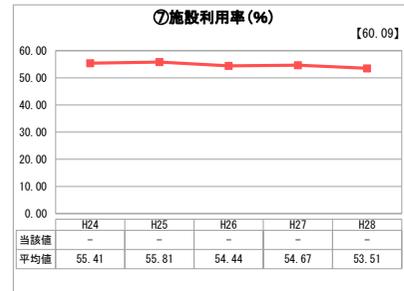
「債務残高」



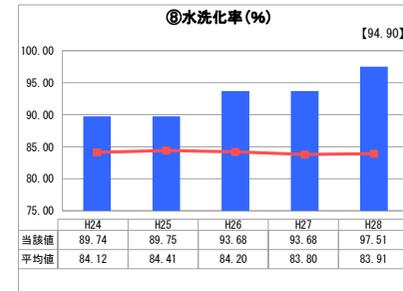
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

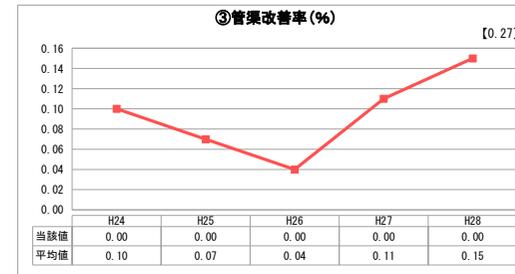
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

公共下水道の整備状況は、昭和55年に下水道法の事業認可を受け、現在、事業計画区域は220.3haで、平成28年度末までの整備区域面積は、197.7haで89.7%の整備率となり、また、管渠の延長は48,998mに達し、接続率は91.2%になりました。汚水処理原価は類似団体平均値より低く、企業債残高対事業規模比率も低く保たれ、現状は必要な維持管理と適正な投資規模であると言えます。しかし、経費回収率は類似団体平均値を下回っています。下水道使用料は、毎年度汚水処理水量が減少を続けており、今後その傾向が続くと推測します。また、将来的な管渠の改修等を考えると、維持管理経費の抑制と費用対効果の高い投資を行うように努めるとともに、経費回収率改善を図って安定的な経営を行なう必要があります。

2. 老朽化の状況について

平成25年度から4年計画で、公共下水道の長寿命化計画の一環として、汚水管渠のテレビカメラ調査を実施しています。長寿命化計画作成や不明水対策によって維持管理費の軽減を図ります。管渠の長寿命化及び不明水対策による経費の削減を目指しています。水路の脇や地下水位の高い特殊な場所・上流に処理面積を抱えている主要幹線を調査しています。

全体総括

平成24年10月に下水道使用料を20.0%値上げをし、経費回収率が若干改善しました。これは、下水道審議会の答申の当時38%値上げに対して、議会からは4年を目的に段階的な料金の見直しをするという付帯条件をいただいていたことから、平成24年10月に20%改定を実施、段階的に平成28年度に使用料の見直しを行い、平成29年4月1日から新料金が適用されます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。